



メチヨー大学

(タイ王国)

(Maejo University)

交流協定締結年月日：2002年3月7日 主管学部：農学部



メインキャンパス(チェンマイ市郊外)



農業+留学

循環型農業、耕畜連携や伝統的農業。スケール感が違います。

国際交流の特色(大学紹介)

メチヨー大学は1934年6月にタイ国立農業技術専門学校として設立され、タイで最も古い農業教育機関の一つである。1975年にタイ政府大学省管轄の国立大学になり、現在、チェンマイの本校とフェアおよびチュンポン分校からなり教員685名、職員1123名が勤務している。学部については、農業生産学部から2008年10月に独立した畜産技術学部、自然科学部、農業経済学部、農業工学部等の12学部から成る。学生数は2016年5月時点で、学部学生17410人、修士課程大学院生709人、博士課程大学院生185人が在籍している。

交流実績(平成26年度～27年度)

受入・派遣	年度	平成26年度	平成27年度
学生受入・派遣		5	5
研究者受入・派遣		3	4



遺伝資源



ワイルドライフ



活発な国際共同研究



Loy Krathong Festival

教員からの声



オープンキャンパス



学生からの声

学内食堂



女性教員が活躍

メチヨー大学はチェンマイ市から北東へ10kmに位置し、一般的な農業地帯に200haの広さを有したキャンパスを持つ王立大学です。本学との交流実績は協定を結ぶ10年以上前から続き、既に十数名を超える香川大学既卒者(博士学位取得後にメチヨー大教員として勤務)と共に、両大学の国際交流を支えています。ご存知のとおり、礼節を重んじるタイ王国の国民性は大変穏やかで、本国と類似点が多いです。一方で、留学生の不安に寄り添うサポート体制にはタイ王国らしい「やさしさ」を実感できる体制が整っています。近年、JASSOの奨学金を利用して女性大学院生が6ヶ月留学しました。本学で学位取得した卒業生は、大学院生のリクエストに柔軟に対応したことで初めての留学でも充実したそうです。農業留学を通してタイの自然から「強さとやさしさ」を学んでみませんか？

農学部准教授 松本由樹

2002年10月に来日し、翌年4月から博士課程1年生に入学しました。最初は、日本語が難しく、日本での生活が不安でしたが、同じタイ留学生、研究室の日本人の友達や先生方に支えられ、楽しく生活しました。博士号取得後は、母校で教員として勤務していますが、日本での留学体験は、未だにかけがえの無い思い出となっています。現在は、機能性飼料の開発として、シイタケ足付粕やサトウキビ抽出物を給餌した鶏の栄養吸収機能に関する研究を行っています。留学時には、指導教員の山内先生(香川大学名誉教授、メチヨー大名誉博士)にお世話になり、今でも感謝しています。私たちは、いつでも学生の皆さんの快適な留学をサポートしますので、皆さんの留学をお待ちしています。

右下図(カウボーイハットの女性) 愛媛連大卒(現メチヨー大副学長) Tonglian Buwjoom 博士

メチヨー大学
(Maejo University)

ホームページ <http://www.mju.ac.th>

●学部学生 17410人
●大学院生(修士) 709人

●職員 1123人 ●教員 685人
●大学院生(博士) 185人